



覚書締結金融機関とのインタビュー企画

コロナのピンチを覚醒のチャンスに!

がんばる金融機関インタビュー

主催：中小企業支援委員会 共催：広報委員会

第5回 姫路信用金庫

日時：令和2年6月19日(金)

場所：姫路信用金庫本店

出席者：三宅智章常務理事 執行役員 牛尾事業支援部長 江間審査部長 浅野事業支援部長

TKC：山本清尊副会長 飯塚宜幸会員

【姫路信用金庫様からのお願い】

TKC会員税理士様と当金庫でタッグを組み、顧問先の支援を継続的に取り組んでいきたい、どのようなことでも遠慮なく、営業店及び本部に相談を願いたい。

以下、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている地元中小企業・小規模事業者への支援が課題となるなか、覚書締結金融機関である姫路信用金庫の三宅智章常務らと対談し、今後の相互協力のあり方について意見交換をしました。

「新型コロナウイルス感染症への対応」

飯塚 申告期限の延長については個人の確定申告の時からスタートしましたが、法人の方も引き続き、申告期限が延長となっております。私たち、実務を行う側としては結局延長しても後でしないといけないということになりますので、できる限り期限内に提出するようにしています。今はこれだけ日本全国でクラスターが発生している状況もあり、申告ができなかったりということもあると思います。姫信さんでもTKCモニタリング情報サービスで決算書がまだ受け取れていないという、行員さんがいらっしゃると思います。皆さま方にはその辺りをお聞きしたいと思います。

三宅 実際、足下の資金需要に対して、まずはスピード感を持ってコロナ支援制度融資を行き渡らせるという環境です。コロナ対応策の資金を出すのに、決算書は要らないですから、われわれの業務上、当金庫の職員が期限延長ということを知らな



右手前から、三宅常務、牛尾部長、江間部長、浅野部長

かったとしても影響はあまり感じていません。

牛尾 今一番気になるのは足下の売上の変化です。前期の決算書が受け取れていないから前に進めることができませんといった通常時のような融資態勢ではないです。前期が黒字であろうが、赤字であろうがとりあえず、今どうですか？ということになります。この点に関する影響は今のところ、それほどありません。

江間 この点については、事業支援部が以前から比べると内容のある活動状況になっています。審査部と一緒にしてお客様の足下を見ていこうということで進化しています。今後も引き続き、事業支援部のメンバーと一緒にやっていけば、お客さんの足下が見えてくる印象を持っています。

浅野 事業支援部としては、やはりお客様の情報をどれだけ早く集めてスピード感を持って対応できるか、ということなので、毎日営業マンは帰店後に営業日報を入力するのですが、それを次の日に全件確認し、ここはどう対応するか審査部と話し合い、営業店と事業支援部と審査部でお客様に対する方向性を決定しています。例えばニューマネーをご融資させてもらうのがいいのか、返済を止めるのがいいのかなど、お客様によって違いますので上記3者間で方向性を決めて、お客様をサポートする方法をできるだけ迅速に行うよう心がけています。

今、特にコロナで急に資金対応、例えば返済を止めないといけないのか、逆に融資をしなければいけないのかというところについては、審査部と一緒に話し合いをして、早期対応できているかと思います。

■ 「信用金庫内の体制作り」

三宅 まず、4月の緊急事態宣言が出た時に緊急対策本部を設置しました。麻生金融担当大臣の談話発表をきっかけに、今までの基準にあまりしぼられず、必要とあれば基本的に資金繰り需要にはすべて応じるとのスタンスであります。あまり当庫独自なものではないと思いますが、全国的な動向と同じく融資残高も空前の出来高となっています。われわれとしては日頃から話をつめていることは、通常でも困っている先から対応を行い、もちろんその他のコロナ対応業種というところもできる限り拾い上げて、順番につめていき、一応は一巡したという印象で、それは融資残高にも表れているのかなと思います。独自の取り組みでは、返済の条件変更している先に対して、平常時はニューマネーを出せませんが、コロナ対策ということで対応しました。さらに散見された例では、テナントの営業自粛意思に関係なく、入居している商業施設自体が休業してしまう。しかしテナントとしては事業継続を考えている、それを売上補填という形になろうかと思いますが、コロナ対策ということで融資支援させていただきました。ニューマネーを出したものの、元本返済は止めた状態にしました。

牛尾 今までどちらかというと新しいお金を出すか、条件変更のなかでも資金繰りを聞いて100万円の返済を70万円にしましょうかという話から始まるのですが、今回はベタッと止めて、ニューマネーを出してとりあえず足下をキープしていただいているということをハイブリッドで行っています。

三宅 元本返済まで止めている先へニューマネーを出すと言うのは、今までの当庫の通常的手法ではありません。こういうことが、コロナ対策支援ということになりましたので、活用させていただきました。それと実際にコロナだからこそ困っているというのが明らかでしたので出しやすかったということも言えると思います。

■ 「TKCモニタリング情報サービスの推進への協働について」

飯塚 TKCモニタリング情報サービスについてはいかがでしょうか？ 現在、決算書提供サービスが470社、月次試算表提供サービスが51社の申込状況です。(9/11時点 各490社、60社)

三宅 昨年11月にTKC近畿兵庫会姫路支部との交流会を開催しましたが、12月末までに500社達成を目指すことを合意しました。あと一歩で届いておりませんので、早期に500社は達成したいですね。TKC会員と姫信職員が一丸となって盛り上げられたら素晴らしいです。



山本副会長 飯塚会員

飯塚 はい、支部としても決算書提供サービス利用社数の拡大に加えて月次試算表提供サービスの利用社数も増やしていきたいと考えております。相互に連携を深め、まずは500社の実践にむけて支部会員とともに取り組みます。本日はありがとうございました。